

第 1 回ワークショップ

災害伝承座談会

～千年先まで伝え続けるには？正解のない難問について語りましょう！～

Q：ある地域で千年に 1 度の地震と津波に見舞われました。復興と並行して、石碑に慰霊、状況、教訓など未来へ残したいメッセージを刻むことにしました。この石碑の願いが千年後まで伝わるためにはどうしたら良いのでしょうか。自由に発想したり、下記の例から選んだり組み合わせて頂いても構いません。

- 災害伝承の主な種類
 - 図画 / 古文書 / 物語 / 言い伝え / ことわざ / 語り部 / 災害遺構 / 災害伝承施設 / 行事 / 祭り / 遊び / 歌 / デジタルアーカイブ化
- 現在まで残っている災害伝承の具体例
 - 祇園祭 / 外所地震（とんどころ）の 50 年ごとに新たに建立される石碑 / 津波てんでんこ / 現存する日本最古の津波碑は 1361 年のもの / 長崎市山川河内（さんぜんごうち）地区では、毎年、念仏講まんじゅう配りと、卒塔婆の作り直し（木製なので約 10 年ごとに作り替え、頻繁に災害を伝える術とする） / 雲仙普賢岳の災害遺構

